

電気通信事業分野における 競争状況の評価2007

概要（案）

平成19年9月

総務省総合通信基盤局事業政策課

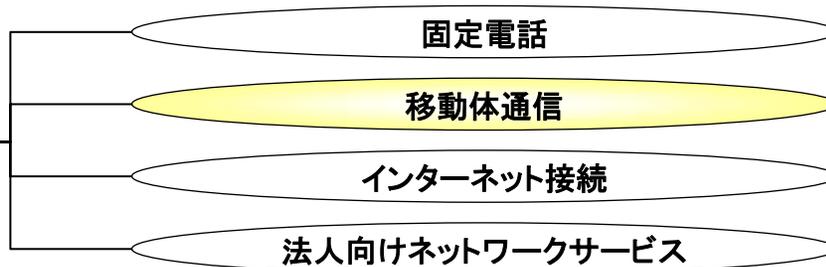
「電気通信事業分野における競争状況の評価 2007」の方針

- 「競争評価」とは、電気通信市場における競争状況を分析・評価するため、2003年度から総務省が実施。調査結果は広く公表するとともに、政策の企画・立案へ活用。
- 今回は、移動体通信を重点領域としつつ、2テーマについて戦略的評価を実施する予定。

<概要>

定点的評価

※毎年度4領域について行う定点的な分析・評価。



戦略的評価

※機動的に競争評価を行うため、その年度で特筆すべきテーマに焦点を当てた分析・評価。

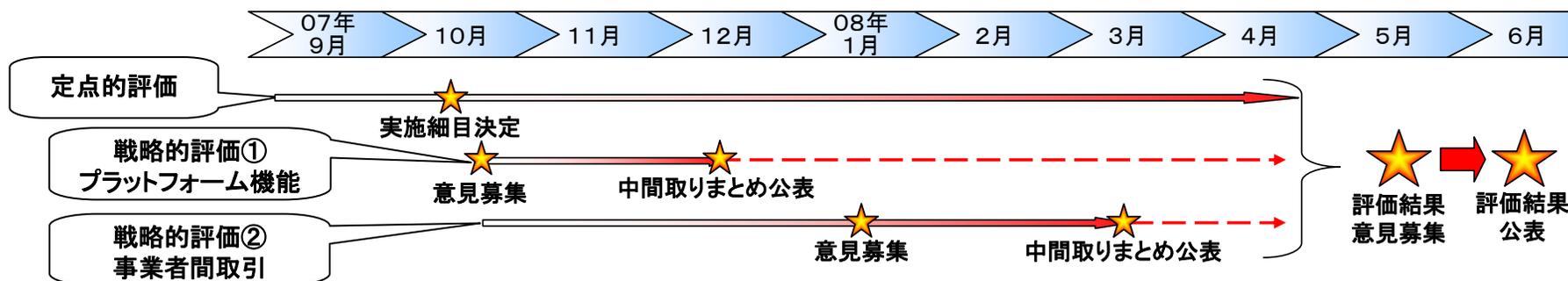
①プラットフォーム機能が競争に及ぼす影響に関する分析

※プラットフォーム機能・・・課金・認証機能、帯域制御機能、位置情報機能など多様なサービス提供にあたって共通に用いられる機能を想定。

②事業者間取引が競争に及ぼす影響に関する分析

※事業者間取引・・・事業者同士で行われる接続や卸といった取引を想定。

<今後のスケジュール>



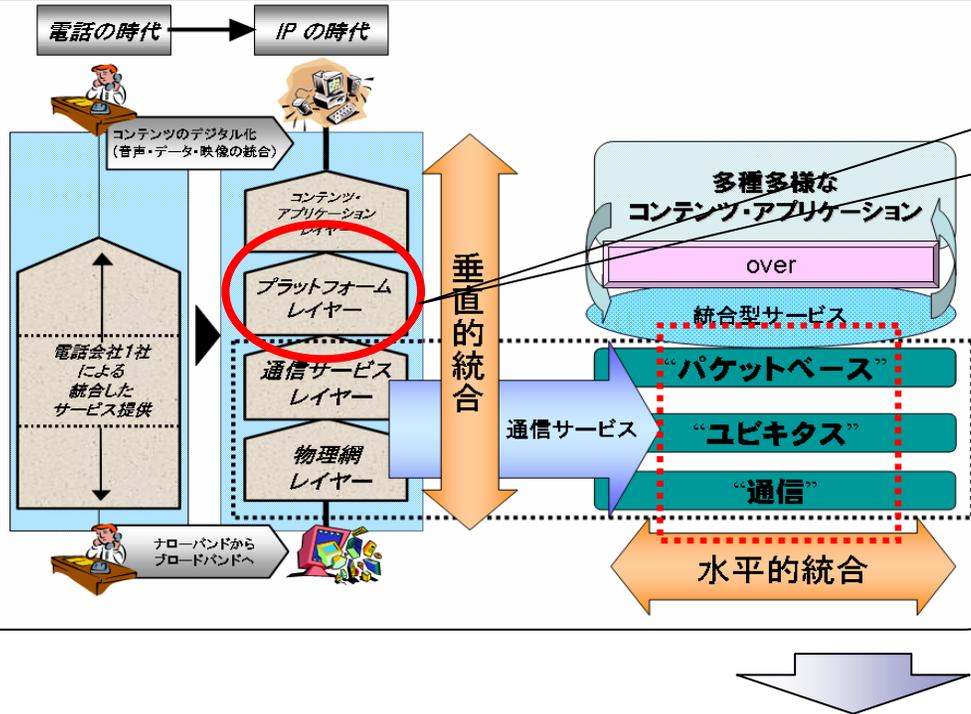
戦略的評価①

プラットフォーム機能が競争に及ぼす影響に関する分析

「プラットフォーム」に着目した評価の必要性

1. 競争評価の実施に当たっても、レイヤー型競争モデルの考え方を念頭に置くことが重要となっている。
← 垂直的統合、水平的統合等の進展など市場環境の変化を背景として、通信サービスレイヤー以外の様々な要素が、事業者間の競争に影響を与える可能性が存在。
2. 特に、いわゆる「プラットフォーム機能」は、利便性が高い多様なサービスを提供するために必要不可欠な要素であるため、**プラットフォーム機能に着目した競争評価を実施する。**

レイヤー型競争モデル



効果的な評価を実施するため、プラットフォームの機能について概念を整理し、分析対象をある程度、明確化することが必要。

【ネットワークの中立性に関する懇談会報告書(案)】
プラットフォームレイヤー(認証・課金、QoS(Quality of Service)制御、デジタル著作権処理など、コンテンツ・アプリケーションを通信サービスレイヤーで円滑に流通させるための機能)

【モバイルビジネス研究会報告書】第4章
2. **プラットフォーム機能**の連携強化
MNOの保有する認証・課金機能、プレゼンス情報等は自社にとっての重要な経営資源であり、MNOは当該機能の強化を通じ、少額決済、コンテンツ・アプリケーション事業をはじめ、垂直統合モデルによる通信サービスの付加価値向上のための事業展開を行っている。...

- 1) ユーザーIDの利活用の推進
- 2) 位置情報の利活用の推進
- 3) プッシュ型配信機能の利活用の推進

3. **端末プラットフォーム**の共通化の促進
ミドルウェアはOSとアプリケーションの中間に位置し、複数のアプリケーションに共通して利用可能な機能を持つソフトウェアであり、Javaの実行環境や画像・音声データの圧縮伸長、GUI(Graphical User Interface)等が挙げられる。こうした携帯端末のOS及びミドルウェアは、総称して**端末プラットフォーム**と呼ばれている。

【評価の基本的な方向性】例えば、**モバイルや次世代ネットワーク関連のプラットフォーム(※)**を分析対象として注目しつつ、幅広い検討を志向する。

※ モバイルにおける課金・認証機能や主要なAPI、次世代ネットワークにおけるいわゆるSDP(サービスデリバリープラットフォーム)等

評価のステップ

1. 幅広い論点を把握するため、事前に**NOI (Notice of Inquiry)**を実施し、評価・分析に活用する。
2. プラットフォーム機能が市場において果たしている役割について、**先行的な調査分析を実施**する。

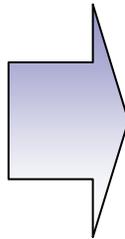
NOI

論点の提示と意見の募集

- ・プラットフォーム機能が新ビジネス創出に向けて果たすべき役割
- ・市場における競争に与える影響
- ・競争力強化・技術革新の促進に与える影響等

調査プランの提示、意見募集

プラットフォーム機能が市場において果たしている役割についての調査プランの提示



プラットフォーム機能が競争に及ぼす影響に関する分析 (案)

【検討事項例】

- ・プラットフォーム機能が新ビジネス創出において果たす役割
- ・市場における競争に与える影響
 - (例)・キャリア間の競争に与える影響
 - ・上位レイヤの競争への影響
- ・競争力強化・技術革新の促進に与える影響

【調査事項例】

- ・市場における競争に与える影響の分析のための調査実施
 - ・プラットフォーム機能が果たす役割
 - (例) 次世代ネットワークやモバイルネットワークにおけるプラットフォーム機能の役割
 - ・プラットフォームに関する消費者の意識や便益
 - (例) メールアドレス、コンテンツ、アプリケーション等のポータビリティや、課金・認証、APIの公開、これらに対する利用者の意識や利用者の便益

分析の視点（例）

電気通信市場における競争の態様
音声通話中心、加入数・エリア拡大 → 市場の成熟に伴うARPU向上

このような状況下において、例えば以下のような視点に着目して分析を行う。

- 事業者が取りうる競争戦略において、プラットフォーム機能が果たす役割等について。
- プラットフォーム機能が消費者の選択や事業者間の競争に及ぼす影響等について。
- 上位レイヤの市場参加者によるプラットフォーム機能の利用に関する課題、競争への影響等について。
- プラットフォーム機能の互換性に関する動向や利活用の進展に関する見通し等について。
- イノベーション促進、競争力強化等とプラットフォーム機能の利活用のあり方について。

戦略的評価②

事業者間取引が競争に及ぼす影響に関する分析

2007年度における事業者間取引市場の分析（案）

- 平成19年度競争評価における事業者間取引の分析は、物理網に係る市場構造の整理に重点。
 - 卸役務の実態をアンケート、ヒアリング等を通じて分析（光ファイバ、MVNO等を想定）。
- なお、分析項目については、論点に関する意見募集（NOI）を実施。

主な検討内容（案）

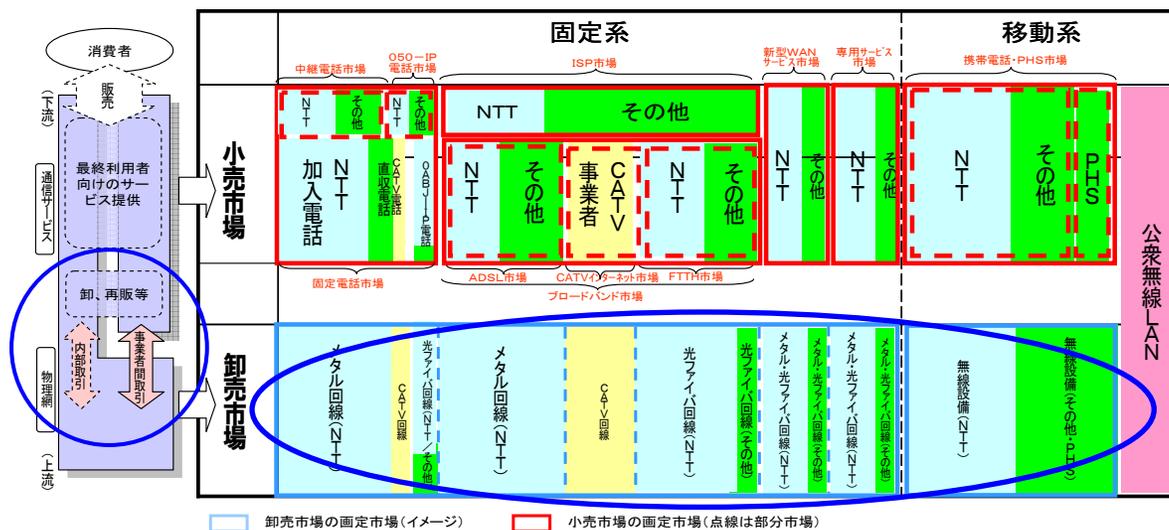
- ① 市場構造の整理
- ② 市場画定に向けた事業者間取引市場の分析の詳細化
- ③ 設備ベースの競争状況の分析（固定系）
- ④ 卸役務の実態分析と問題点（光ファイバ、MVNO等）

事業者間取引市場の再整理に向けて

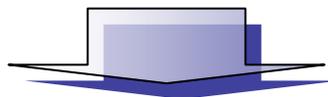
- 2006年度の整理・イメージでは、相互接続と卸役務の区別が不十分であるなど分析枠組みの更なる精緻化が必要（例えば、物理網の構成にのみ着目している点など）。

→ 取引実態を踏まえた検討が必要。

◆ 06年度競争評価 卸売市場イメージ ◆



課題：アクセス回線部分に注目した物理網の構成を示したにとどまっている。



各種取引の場面の実態を踏まえた整理が必要

事業者間取引の場面①：回線提供に必要な設備の取引（コロケーション、電柱管路）

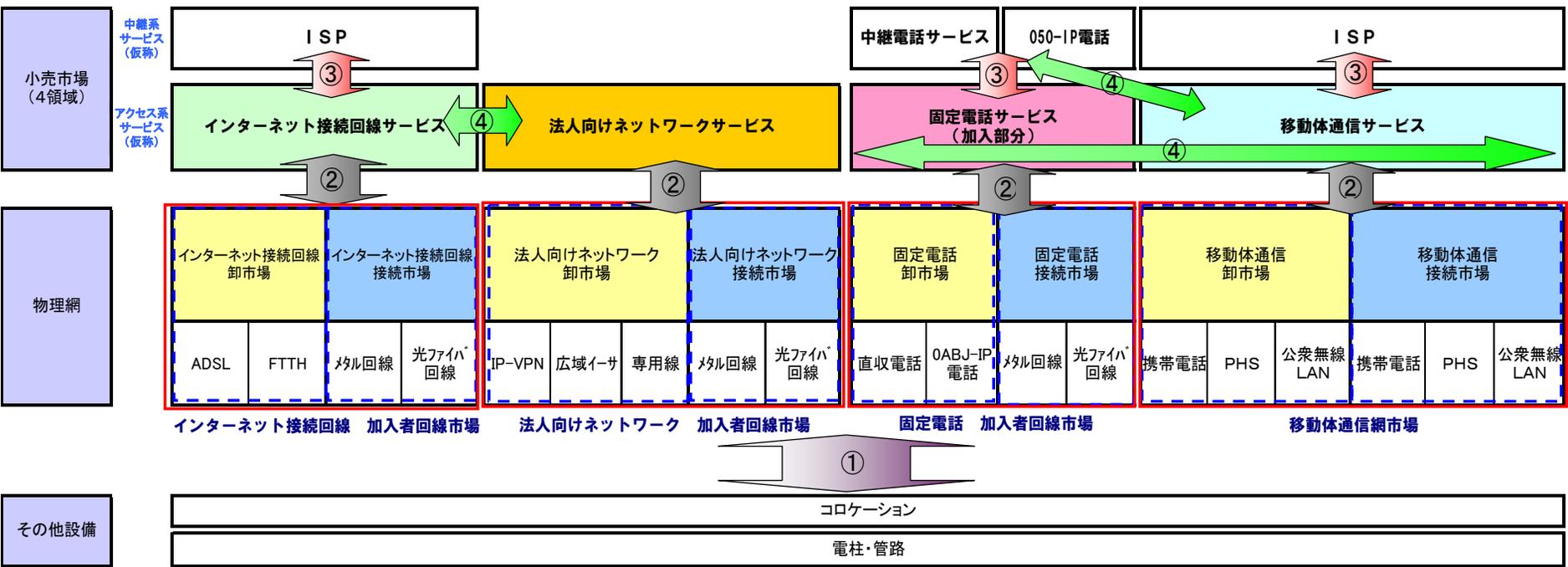
事業者間取引の場面②：加入者回線／無線設備の調達（卸／接続）

事業者間取引の場面③：上位サービス（ISP、IP電話等）における取引（ネットワークの調達、トランジット等）

事業者間取引の場面④：ネットワーク間の取引（発着信に係る接続、等）

市場画定へ向けた市場構造の整理（イメージ）

- 物理網に関する取引(②)を中心に、①～④の事業者間取引を整理・分析。
- 取引形態(卸、接続)、取引の対象となるサービスの代替性等も考慮する等して、市場を整理。



※ ①～④は事業者間取引の場面を示す。

 画定市場(イメージ)
 部分市場(イメージ)

(参考) 物理網に係る事業者間取引の類型 (イメージ)

卸取引									
固定電話		インターネット接続回線		法人向けネットワーク				移動体通信	
直収電話	0ABJ-IP電話	ADSL	FTTH	IP-VPN	広域イーサ	専用線	携帯電話	PHS	公衆無線LAN

接続取引				
メタル回線	光ファイバ回線	携帯電話網	PHS網	公衆無線LAN網